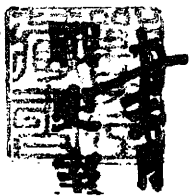


沖繩北地返隊戦斗計画

返還史料

防衛研修所

独立混成第15旅団



220

2200-6



第十章
第九章
第八章
第七章
第六章
第五章
第四章

戰關
藥城
通信連絡
情報防諜

戰關地境
軍隊區分及之基^ニ各隊任務

一方針
ニ指導要領

敵情判断
戰關任務及行動ノ概要
戰關指導方針及指導要領

石川 總則
油 總則
北地部隊戰鬥計畫書

4506
0-

45060

昭和33年4月米政府返還旧日本軍記録文書等史料経歴票
防衛庁防衛研修所戦史室

表題	
整理番号	
作成の部隊 庁・個人名等	
作成年月日	明治 大正 昭和 年 月 日 作成 自 年 月 日 至 年 月 日 の間に作成
史料 の 主 内 容	
備考 (本史料に關 する参考事項 を記す)	
史料 の 入 手 経 路	本史料は大東亞戰爭中米軍が直接戦場で鹵獲し、又は内地進駐後、陸 海軍艦機裏から取出した記録文書の一つであつて、長くワシントン郊 外フランコニヤ等の記録保管所に保管されていたが、米日務省に対す る日本政府の返還要求に応じ、昭和33年3月日本側に引渡され、同年4 月横浜着、同月10日指定保管責任庁たる防衛研修所戦史室の手に附し たものである。
責 任 者 氏 名	防衛庁防衛研修所戦史室長 防衛庁事務官 西 浦 進

昭和33年5月調査

第十一章

兵器彈藥海軍兵器積貯藏並ニ

補給ニ関スル事項

第十二章

給水・衛生

第十三章

給養ニ関スル事項

第十四章

森林ノ累積貯藏及補給ニ関スル事項

總 則

- 一 本戰鬪計畫書ハ北地區隊ノ戰鬪ニ関シ必要ト認ムル事項ヲ示ス
本計畫書ニ示サルノ事項ハ典令範、島嶼守備戰鬪教令第三十二軍戰
鬪教令、獨泥甲四旅團守備計畫ニ據ルモノトス
- ニ 各隊ハ本計畫書ニ基キ各々自隊ノ戰鬪指導ノ方針ヲ確定シ之ニ
基キ陣地ヲ施設スルト共ニ本施設ヲ利用シテ任務ヲ達成スルノ訓練
ヲ反復演練シ以テ優越セル準備ト訓練ノ精到トニ依リ必勝ヲ期ス
ルモノトス
- 陣地施設ノ概成ニ伴ヒ逐次訓練ヲ並行セシメ不時ノ弱戰ニ際シテ
モ不覺ヲ取ラサル如ク著意スルヲ要ス
- 三 本計畫書ヲ改訂又ハ補修シタル場合ハ其ノ都度報告・通報スルモ
ノトス
- 四 各隊ハ本計畫書ニ基キ自隊ノ戰鬪實行ニ関シ計畫シ置クモノトス

第一章 戰關任務及行動概要

一、任務

聯隊(五個)一部缺(北地區隊トナリ本部半島北半部ノ要地ヲ確保シ絶對持久ヲ策シ特ニ砲兵ヲ掩護ス狀況ニ依リ伊江島ニ對スル海上機動ヲ準備ス
戰關地境左ノ如シ

南地區隊 渡久地—伊豆味—吳我山—港道—港南方無名島
北地區隊 (滿名東方橋梁以西北地區隊ニ屬ス)
國頭地區隊 (吉宇利島東南端—連天港—港東方無名島—線上ハ北地區隊ニ屬ス)

二、行動概要

1. 乙羽岳附近ヨリ北山城趾謝花、渡久地附近ニ亙リ前進陣地ヲ占領シテ敵戦力ノ消耗ヲ圖リ主力ハ福地内當屋比久原附近ニ亙ル陣地ヲ堅固ニ占領シ敵殲滅ヲ策スルト共ニ内當及其西南方地區ヲ

確保シテ旅團後廓陣地ノ一部トナシテ絶對持又ヲ期シ特ニ砲兵ヲ
其ノ後廓陣地内ニ於テ活動セシム

又旅團主力ノ爲ニ南地區隊ト共ニ屋名度附近ニ陣地ヲ設備ス

2. 桃原附近ニハ一部ヲ以テ敵ノ上陸ヲ妨害シ且安ストハ砲兵ヲ掩
護ス

3. 伊江島ニ對スル海上機動ヲ準備ス

4. 敵若シ南地區隊正面ニ上陸スル場合ニ在リテハ南地區隊正面
ニ移行スルノ準備ヲナス

5. 本部ハ渡久地ニ位置シ戰備ニ方リ後廓陣地内ニ移ル

第二章 敵情判断

一、敵ハ主力ヲ以テ沖繩本島南半部ニ上陸ヲ企圖シ有力ナル一部ヲ
以テ伊江島及本部半島ヲ攻取スルナラン

ニ、本部地區ノ敵情判断

イ、敵ハ主力ヲ以テ伊江島ヲ攻取シテ同地ニ飛行場基地ヲ推進スルナラン

ロ、伊江島攻取後又ハ之ト同時ニ本部半島ニ上陸ヲ企圖スルナラン

三、本部半島ニ於ケル敵情判断

イ、本部半島ニ於テハ瀨底島嶼本部附近ニ上陸シ重砲陣地ノ攻取ヲ
企圖スルナラン

ロ、備瀬、今泊附近ヨリ我カ後廓陣地ニ殺到スル場合ヲラン

ハ、時トシテ運天港附近ニ上陸シ半島ノ遮断ヲ企圖スル場合モアルハシ

第三章 戰術指導方針及指導要領

一 方針

- 一、水際ノ要突ニ部ノ兵力ヲ配催シテ海上警戒ニ任セシムルト共ニ敵上陸時短切闇討的背側射ヲ加テ敵戦力ノ消耗ヲ圖ル
- 二、前地(水際ヨリ本陣地間)ニ於テハ地形地物施設ニ據リ火力肉攻ヲ以テ極力敵戦力ノ漸減ヲ期ス
- 三、此間ニハ潜伏切込據矣ヲ準備シ選抜セル者ヲ残置ス
- 四、本陣地ハ艦砲射撃ヲ被ラス且敵戦車蹂躪ヲ受ケサル天險ニ擊滅據矣ヲ設ケ陣前至近距離ニ背側射ヲ短切闇討的ニ發揚シテ陣前ニ擊滅ス
- 五、四狀況己ラ得サル場合ニ於テハ豫メ準備セル複廓陣地ニ據リ最後ノ一兵ニ到ル迄陣地ヲ死守ス

二 指導要領 其の一

一般ノ要領

一 戦闘指導ノ根本著想ハ左記六矣トス

(1) 熾烈ナル砲爆時、被害絶無ノ對策

イ 偽陣地、偽裝欺騙ヨリ砲爆ノ分散

ロ 築城強化ノ徹底

(2) 對戰車戦闘

イ 地形ノ利用ヨリ蹂躪阻止

ロ 對戰車障碍

ハ 肉攻ノ訓練ノ精到

(3) 積極主動的防禦方針ニ基キ創意工夫奇策縱横ノ戦法ニヨリ

敵ノ意表ニ出ス

イ 敵戦法ノ研究

ロ 千通一律ノ硬直固定ノ戦法ヲ廢シ發洩端倪ヲ許サル創意

(4) 對火焰攻撃

(5) 夜間ノ活用

(6) 精神要素ノ發揮

不拔ノ責任觀念

熾烈ナル戦闘精神

ニ常時情勢即應、態勢ニ在リテ陸地ノ強化ニ努ムルト共ニ訓練ヲ並

行セシメ心勝不敗ノ信念ヲ確乎ニシム

ニ對空對海上警戒ヲ嚴ニシ敵ノ奇襲ヲ備ヘ敵上陸企圖偵知ニ努ム

四 水際ニ於テハ敵戦力ノ消滅ニハ大ナル兵力ヲ使用セズ

監視ヲ兼ネテ一部ノ兵力以テ背側射ノ奇襲火力ヲ以テ敵戦力ノ

消滅ヲ圖ル

五 前地ノ戦闘ハ地形障碍ヲ利用シ戦術果敢ニ行ヒ敵攻撃企圖ヲ破

推シテ持久ヲ策ス

夜間ノ挺身奇襲ニ大ナル期待ヲ持ツ

六、主陣地ニ於テハ陣前並距離ニ疾速適當的ノ背側射火力ヲ急襲發揮シ火力ニヨリ陣前擊滅ヲ期ス

特ニ敵戰車ノ突進疎闊ハ絶對防止スル如ク施設スルト共ニ肉攻ニ徹底ス

七、陣前逆襲ハ之ヲ行ハス

突入スル敵ニ對シテハ戰車ハ肉攻ニ依リ步兵ハ直突射擊又ハ腰狙射擊ヲ併用スル自兵ニヨリ飽タテテ施設ヲ利用シテ敵ヲ擊滅シ陣地ヲ確保ス

八、谷火器ハ努メテ多クノ予備陣地(一火器少クモモテ準備シ巧ミ之ヲ利用シテ敵火ノ損害ヲ避ケ好機ニ投シテ猛射ヲ加ヘ各級指揮官ハ適時火器兵力ヲ所望ノ方面ニ集中シテ重突ヲ形成シ彈力性アル戰鬥ヲ指導ス

九、陣内ニ突進スル敵ニ對シテハ陣内ノ施設ニヨリ火力ト肉攻ノ自兵ニヨリ之ヲ阻止滅滅ス

一〇、主陣地ハ過早ニ決戰ニ陥ラサル如ク天險ヲ利用シ彈藥ヲ糧秣ヲ陣内ニ確保シテ持スヲ策ス

二、戰況不利トナリ逐次據点ヲ吞食セラレ據点ノ保持困難トナルニ至ラハ命令ニヨリ聯隊後部陣地ニ轉移シ最後ノ一兵ニ到ル迄陣地ヲ死守ス

三、戰況不利トナリ指揮官ヲ失ヒ戰友相斃ルトモ隊長ノ屍ヲ擁シテ陣地ヲ死守シ敵ニ一大鉄鎚ヲ加フル烈々タル敢闘精神ノ發揮ヲソ眞ニ我カ勇敢ナル獨混軍士聯隊將兵ノ本領トス

三、各隊ハ且教ヘ且關フヘキモ精到ニ訓練ハ周到ナル準備ト相俟テ必勝ノ根基ナルニ思ヒテ致シ任務ニ即スル訓練即チ此ノ銃、此ノ地物此ノ施設ヲ以テスル訓練ヲ及履シテ必勝ノ根基ヲ確乎ニスヘシ

特ニ精神要素 就中責任觀念ト敢闘精神ノ涵養ニ徹底ス

指導要領 廿ノ二

敵情判断ニ基ク戰鬥指導ノ要領

一 今泊附近ニ上陸スル場合（一號配備ト略稱ス）

1. 北山城趾ノ前進陣地ニ聯隊砲一門ヲ増強シテ堅固ニ守備セシム

2. 第二大隊ハ歩兵各一小隊ヲ以テ千數西方及兼次南方ノ既設陣地ヲ前進陣地トシテ占領セシム、特ニ敵ノ仲泉根方面ニ迂回スル行動ヲ阻止ス

3. 第一大隊ハ〇ニ〇七及嘉津宇附近ノ既設陣地ヲ一小隊ヲ以テ確保セシム、敵ヲ此ノ方面ニ誘致ス

4. 第二中隊ヲ聯隊豫備トシテ堂握シ内當附近ニ待機セシム

ニ備瀬半島ニ上陸スル場合（ニ號配備ト略稱ス）

1. 敵ノ主力新里原、備瀬河トシテ合ニ於テモ歩兵一小隊ヲ以テ△七三九附近ノ既設陣地ヲ前進陣地トシテ堅固ニ守備ス

狀況ニ依リ速射砲一門（自動ヲ利用）ヲ増強スルコトアリ

砲兵隊桃原附近ニ陣地ヲ占領シテ爾場合ハ特ニ砲兵ノ掩護ニ任ス

2. 第一大隊ハ嘉津宇及謝花附近ノ既設陣地ヲ各一小隊ヲ以テ前

進陣地トシテ占領シ且ニ〇七、ニ三七高地ハ一部ヲ以テ成ル可ク長ク保持ス

3. 長増原東北方墓地附近及蒲崎北端附近ノ本道ヲ破壊シテ戰車ノ突進ヲ阻止ス

4. 屋比久原海軍砲健在スル場合ニテハ第三中隊ノ主力ヲ以テニ三七高地ヨリ屋比久原西ノ高地線ヲ成ル可ク長ク確保シテ海軍砲ヲ掩護ス

5. 第三中隊ハ敵近道ニ決戦ヲ避ケ屋比久原東方ノ岩山ヲ利用シ敵戦力ノ漸減ヲ圖リシ、本陣地ニ転移ス

6. 旅團砲兵伊野波西北方陣地ニ在リ場合ハ伊野波西方高地同地北方岩山ヲ據テトシテ確保シテ掩護ス

7. 第六中隊ヲ聯隊豫備トシ福地西側ニ掌握ス

三 渡久地港附近ニ上陸スル場合（三號配備ト略稱ス）

ノ聯隊砲ヲ以テ好機ニ投シ本陣地洞窟ヨリ舟艇違着時ヲ射撃ス

2 第一大隊ハ配備ノ重責ヲ左ニ移シ原比久原ヲ堅固ナル前進陣地トシ

第二中隊ノ嶺名附近ノ肉攻ヲ強ヒス

3 速射砲ハ伊野波西方ノ陣地ニ進ハシテ渡久地―伊豆味道ヲ突進スル敵戦車ヲ阻止ス

4 第二大隊ハ各一部ヲ以テ・三〇ニ西方高地及嶽當北方附近ニ配置シ主力ハ福地西側附近ニ待機ス

四 運天港附近ニ上陸スル場合（四號配備ト略稱ス）

1 第五中隊長ヲシテ乙羽岳守備隊ヲ併ヒ指揮シテ乙羽岳ヲ前進陣地トシテ堅固ニ守備セシム

2 敵若シ運天港ヨリ西進スル場合ハ第一大隊ヲ掌握シテ第二大隊ノ陣地ニヨリ敵ヲ撃滅ス

3 敵若シ運天港ヨリ南下スル場合ハ旅團長ノ命令ニ依ルヘキモ乙羽岳ヲ

堅固ニ保持スルト共ニ仲宗根又ハ吳我山方向ヘノ機動ヲ準備ス

六 南地區隊正面ニ上陸スル場合（五號配備ト略稱ス）

旅團ノ命令ニ依ルヘキモ大嘉陽・真部山附近ノ南地區隊陣地ヲ右嶺スルトアルヲ豫期ス

第四章

軍隊區分及之基礎各隊任務及行動概要附表第一、如シ

附表第一

軍隊区分	主要ナル任務	一號配備	二號配備	三號配備
<p>聯隊本部 長 美田大佐 志村大尉 岡澤大尉 柴田中尉 石井少尉</p>	<p>聯隊長補佐 上下左右連絡 作戰二團之聯隊長 補佐 築城主任 情報/收果 通信連絡 暗号/組之離散ニ 任シ 聯隊副官ヲ 補佐ス</p>	<p>一部ヲ以テ乙初岳 今泊又ハ運天港方 向ヨリ名護方向ニ突 進スル敵機甲部隊 ヲ阻止ス</p>	<p>同上</p>	<p>同上 状況ヨリ機雷方 面ニ転用スルコトアリ</p>
<p>乙初岳守備隊 長 義井少尉 弟中隊一小隊 機關銃一分隊 無線一</p>	<p>今泊又ハ運天港方 向ヨリ名護方向ニ突 進スル敵機甲部隊 ヲ阻止ス</p>	<p>一部ヲ以テ乙初岳 今泊又ハ運天港方 向ヨリ名護方向ニ突 進スル敵機甲部隊 ヲ阻止ス</p>	<p>同上</p>	<p>同上 状況ヨリ機雷方 面ニ転用スルコトアリ</p>
<p>右岸線大隊 長 井上大尉 第二大隊 (訂及新隊) 今歸仁中隊 軍犬二</p>	<p>三〇ニ高地ヲ前進陣 地トシ主力カ其西 方高地及福地東方 高地ヲ各撃滅後 トシテ堅固ニ守備ス 一部ヲ以テ屋名座東 方高地及内當南方 高地ヲ確保ス</p>	<p>要那嶺北ノ海岸要 要ニ一部兵力ヲ配置 備トス 漸次ノ圍リ海岸邊 ヲ前進スル戰車ヲ阻 止ス</p>	<p>第六中隊ハ聯隊後 方高地ノトス</p>	<p>重要方高地及一部ヲ 屋名座東方高地ヲ 確保ス</p>
<p>左第一線大隊 長 野崎大尉 第一大隊 本部中隊 軍犬二</p>	<p>北山城趾、枕原北方 前進陣地トシ主力カ内 當北方及西方高地、 二六ニ高地ヲ各撃 滅後、堅固ニ 守備ス 一部ヲ以テ三〇、三五及 其西方高地ヲ又、 三三七及屋比久原附近 ハ海軍砲隊保護、島 堅固ナル前進陣地ト シ成ル可ク長ク確保 ス</p>	<p>今泊、具志堅附近、 海岸要要、兵二部ヲ 配置シ北山城趾、 二六七附近、前進陣 地トス △二五八高地及其、 西方高地ハ部ヲ以テ 成ル可ク長ク確保ス</p>	<p>有力ナル一部ヲ以テ枕 原附近ヲ占領シ砲 兵掩護任セシム 謝北、嘉洋守附陣 既設陣地ヲ利用シ 敵兵力ノ漸次ノ圍リ 敵火力ノ漸次ノ抵抗 ニ三三七及屋比久原高 地ハ成ル可ク長ク保持 シ海軍砲隊保護ニ屋 比久原東方若山ハ其 ノ嶺頂ニ部、兵及ヲ 配置シ逐次抵抗ヲ 行フ</p>	<p>特ニ満名附近ニハ逐 射砲火力ヲ相俟テ 道路阻絶ノ對戰 車陣地ニ附屬ス ル内攻ヲ配置シ満 名以西ニ於テ敵戰 車ヲ阻止ス</p>
<p>海軍砲隊保護、島 堅固ナル前進陣地ト シ成ル可ク長ク確保 ス</p>	<p>今泊、具志堅附近、 海岸要要、兵二部ヲ 配置シ北山城趾、 二六七附近、前進陣 地トス</p>	<p>有力ナル一部ヲ以テ枕 原附近ヲ占領シ砲 兵掩護任セシム</p>	<p>謝北、嘉洋守附陣 既設陣地ヲ利用シ 敵兵力ノ漸次ノ圍リ 敵火力ノ漸次ノ抵抗 ニ三三七及屋比久原高 地ハ成ル可ク長ク保持 シ海軍砲隊保護ニ屋 比久原東方若山ハ其 ノ嶺頂ニ部、兵及ヲ 配置シ逐次抵抗ヲ 行フ</p>	<p>特ニ満名附近ニハ逐 射砲火力ヲ相俟テ 道路阻絶ノ對戰 車陣地ニ附屬ス ル内攻ヲ配置シ満 名以西ニ於テ敵戰 車ヲ阻止ス</p>

	<p>八海軍砲掩護、島堅固ナル前進陣地トシ成ル可、長ク確保ス</p>		<p>比久原東方若山、其ノ構築ス 巖頂ニ部、兵ヲ配置シ逐次抵抗ヲナス 伊野波東ノ高地ハ砲兵掩護ノ爲堅固ニ守備ス 渡久地、伊豆味道ハ敵戦車ノ突進ヲ阻止ス</p>		
<p>聯隊砲隊 長杉浦中尉 聯隊砲隊 (小銃)</p>	<p>三角山(内當西方)ニ陣地ヲ占領シテ邊名地ヨリ演習ニヨリ射撃シ又ハ敵戦車ノ突進ヲ阻止ス 三角山 砲兵ハ258</p>	<p>北山城趾、建設陣地ニ進入シテ今治附近、沿岸ヲ射撃ス 特ニ敵戦車ノ突進ヲ阻止ス</p>	<p>本陣地ニ在リテ大窪原北方高地及屋比久原高地ヲ火制スル如ク火力ヲ準備ス</p>	<p>三角山ノ砲兵渡久地附近ニ於ケル舟艇ノ達着時短切爾射撃ニ任シ 渡久地東方ニ集中スルヲ準備ス 屋比久原高地以東ニ火力ヲ準備ス</p>	
<p>速射砲隊 長古川中尉 速射砲中隊</p>	<p>主トシテ左第一線大隊ノ對戰車射撃ニ任ス 状況ヨリ302高地方面ニ對シテ準備陣地ヲ準備ス</p>	<p>302西方高地ニ準備陣地ニ進入シテ對戰車射撃ニ任ス</p>	<p>状況ヨリ一門ヲ桃原附近ニ出シ新里原西方地區ヲ測射シ得ル如ク準備ス 大窪原平地ニ火力ヲ準備ス</p>	<p>伊野波西方高地ニテ渡久地、伊豆味道ヲ突進スル戦車ヲ阻止ス</p>	
<p>工兵隊 長北村中尉 工兵中隊 (一小隊使) 町氏 一〇〇</p>	<p>對戰車内火ヲ主ニ任セタス 一部ヲ以テ陣地ノ補修、交通施設障礙ノ設置挺身奇襲ヲ急ニ設地番原ノ構築ニ任ス 給水源ノ施設</p>	<p>今治東端及長増原東北麓地附近ノ水道破壊 北山城趾正面ニ地雷原構築ス 東上原ニテ、二三七高地、各戰部ニ障礙設備</p>	<p>浦崎北端附近ノ阻絶、瀨元南方海岸道破壊 桃原、謝花附近ノ挺身奇襲</p>	<p>渡久地瀨名道ノ阻絶破壊 瀨名附近地番原ノ構築</p>	
<p>通信隊 長柴田中尉 有線三分隊 無線四分隊 軍犬 軍艦 少年通信手三〇</p>	<p>第一線各隊ト本部間ノ通信連絡ニ任ス 旅團司令部及前地區隊砲兵隊ト連絡ニ任ス 六号無線線ハ大隊ニ配屬シ中隊ト連絡ニ使用セシム</p>	<p>通信網ハ平素ヨリ準備シ成可ク長ク警察連絡電話ヲ利用ス 通信所堅固ニ構築ス</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	

	ヲ準備ス		準備ス	
工兵隊 長北村中尉 工兵中隊 (一小隊缺) 町氏一〇〇	對戰車肉付ヲ主 任務ス 一部ヲ以テ陣地ノ補 修ノ支遣施設障礙 設置挺身奇襲 持ニ急攻地留原ノ 構築ニ任ス 給水源ノ施設	今泊東端及長増 原東北麓地附近 本道破壞 北山城附近正西ニ地 留原ノ構築 東上原ニテ、ニニ 高地ノ谷部ニ障 碍設備	清崎北端附近ノ阻 絶濱元南方海岸 道破壞 桃原、謝花附近ノ 挺身奇襲	深久地、滿名道ノ 阻絶破壞 滿名附近地留原ノ 構築
通信隊 長柴田中尉 有線三分隊 無線四分隊 軍犬 軍旗 少年通信手三〇	第一線各隊ト本 部間ノ通信連絡ニ 任ス 旅團司令部支那地 區隊砲兵隊ト連 絡ニ任ス 六号無線機ハ大隊配 屬ニテ中隊トノ連絡 使用セシム	通信網ハ平常ヨリ 準備シ成、司令長ヲ 警備隊通信電話ヲ 利用ス 通信所ハ堅固構 築ス 無線機ハ旅團ニ別岳 守備隊間ニ使用ス 副通信員準備ス	同上	同上
兵器勤務隊 長藤本中尉 兵器班 地方鍛冶 若干	彈藥保管格納ニ 任シ彈藥爆藥ノ 交付班ニ兵器修理 整備ニ任ス 押収兵器ノ活用ニ 著意ス	複廓陣地内ニ彈 藥爆藥ヲ分散保 管シ野戰修理ニ場 所陣内ニ設ケ 對戰車資料ノ整 備ニ任ス	同上	同上
制毒隊 兼長藤本中尉 消毒三分隊	開戦前瓦斯關ニ 情報ヲ收集ニ任ス 瓦斯ノ檢知制消毒ニ 任ス 氣象諸元ノ精査 瓦斯資料ノ整備	戰闘指揮所附近 ニ瓦斯收護所ヲ設 ケ揚子、吹谷、汚毒 兵器被殺、消毒ニ 任ス	同上	同上
隊補給所 長町田中尉 補助班 女子隊(三〇) 警防團第三班	傷者收容治療 傳染病ノ防遏 地下棲息及陣内 衛生施設指導 防疫給水ニ任ス	補給所ノ開設場 所ノ治療ヲシテ 女子隊ヲ以テ給水ニ 任セシム 給水源ノ確保、整 備ニ任ス	同上	同上
補給班 長柳大尉	糧秣六ヶ月ヲ確保 シ開戦後補給ニ	糧秣ハ複廓陣地 ニ分散集積ス	同上	同上

<p>制毒隊 隊長 藤本中尉 消毒二分隊</p>	<p>開戦前瓦斯関連 情報収集任 瓦斯検知制消毒 任</p>	<p>戦闘指揮 附近 ニ瓦斯收護所ヲ設 キ揚者、心算、汚 兵器被毀、消毒ニ 任</p>	同上	同上
<p>隊醫部所 長 町田中尉 補助担架 女子隊(三) 警防団第三班</p>	<p>傷者収容治療 傳染病、防逸 地下棲息及陣内 衛生施設指導 防疫給水ニ任</p>	<p>縮帯所ヲ開設傷 者治療ヲ任 女子隊ヲ以テ給水ニ 任セシム 給水源、確保、整 備ニ任</p>	同上	同上
<p>補給班 長 柳大尉 經理班 荷馬車 三〇</p>	<p>糧秣六日ヲ確保 シ開戦後補給 任 現地目録、方策ヲ 講ス 地方物資、取得確 保</p>	<p>糧秣ハ被擧陸地 ニ分散集積ス 地方馬車、確保 物資、取得 爾后、補給ニ任</p>	同上	同上
<p>豫備隊</p>	<p>状況ニヨリ步兵中 隊及重火器一部ヲ 掌握シ防禦ノ重 要ヲ形成ス 又一部ヲ以テ挺身奇 襲ニ任セシム</p>	<p>第ニ中隊及TA一 小ヲ掌握シ 302西方高地ヲ強化</p>	<p>第大中隊及細ヲ 掌握シテ第三中 隊正面ヲ強化ス</p>	<p>II、主力ヲ以テ262 嶺名東北正面ヲ強 化ス</p>
<p>備考</p>	<p>一、第四第五配備ハ状況ニ依リ(旅團命令アルモト)豫想ス部署ニ 新ナル任務ヲ附與ス 二、状況ニヨリ重火器一部ヲ重要方面ノ大隊ニ配属スルコトアリ 三、旅團砲兵ト協定ニ關シテ八席一線大隊毎ニ實施スルモノトス 四、海軍砲用法ハ旅團長命令ニヨルヘクモ第ニ中隊ハ緊密ニ協同 スルモノトス</p>			

第五章 戰關地境

一隣接部隊ノ戰關地域境界左ノ如シ

乙羽岳守備隊

右大隊

左大隊

平敷東端—片矣線路—親名—伊豆味片矣線路

今治東端—東上原東方谷地—内當東端—262東方谷地—

並里東方谷地

線ハ各々左ニ屬ス

第六章 戰備

一、戰備ノ度ニ関シテハ地區隊長之ヲ命ス
 二、戰備ノ度ハ甲號戰備乃至丁號戰備ニ區分シ各隊ノ行動ヲ左ノ如ク定ム

戰備區分	情 況	部 隊ノ 行 動
甲號戰備	敵有力部隊ノ上陸(空) 陸攻撃ノ虞アル場合 敵上陸(着陸)攻撃ノ 算少キモ注意又ハ砲撃ヲ 受ケル虞アル場合	一、部隊戰鬪配備ニ就キ隨時戰鬪ヲ開始シ得ルノ準備ヲ整ヘ洞窟内ニ待機シ敵進ヲ待ツ 二、各隊ハ對空(砲探)並海上警戒ヲ嚴シ 三、所要ニ應ジ監視哨ヲ増加ス 四、必要戰鬪ノ準備ヲ整フ
乙號戰備	敵機動部隊進接ノ虞アリカ 敵飛行機潜水艦 偵察ノ虞アル等警戒ヲ嚴シ 必要アル場合	一、各隊ハ對空並海上警戒ヲ嚴シス 二、對空射撃ニ任ズル部隊ハ一部ヲ以テ戰鬪配備ニ主力ヲ以テ警戒配備(高射部隊)ニ於テハ警戒姿勢トスニ充テ 三、兩餘部隊ハ迅速掩蔽下ニ待避シ得ルノ準備ヲ整ヘ我カ配備兵力等ヲ 四、必要ニ應ジ如ク留意ス
丙號戰備	一號戰備ノ令聞空襲警戒 報知除デレケル時及警戒 戒嚴警戒令セラレタル時ハ 別命ナク本戰備ニ移ル	一、各隊ハ主ニ對空及海上監視哨ニヨリ警戒ヲ行フ 二、其他ハ教育訓練築城交通作業其他勤務ニ従事ス 但シ常ニ敵奇襲攻撃ニ對應シ得ル如ク所要ノ準備ヲ遺憾ナキヲ要ス
丁號戰備	我哨戒團及電波警戒隊 内ニ敵ヲ認メサル場合 丙號戰備ノ令聞警戒 警戒解除セラレタル時ハ 別命ナク本戰備ニ移ル	一、各隊ハ主ニ對空及海上監視哨ニヨリ警戒ヲ行フ 二、其他ハ教育訓練築城交通作業其他勤務ニ従事ス 但シ常ニ敵奇襲攻撃ニ對應シ得ル如ク所要ノ準備ヲ遺憾ナキヲ要ス

三丙號戰備以上ニ於ケル對空對海上警戒、配置附圖第三ノ如シ

第七章 情報、防諜

- 一 情報取得、爲ニ情報勤務規定ニ基キ情報班ヲ設ケ迅速確實ナル情報ヲ取得利用ス
- ニ 防諜ニ關シテハ防諜規定及連絡規定ニ基キ嚴ニ軍機ヲ漏洩セサル如ク注意スルヲ要ス
- 三 敵上陸ノ機近迫スルヤ沿岸住民ノ動向ニ注意シ敵第五列ノ活動ヲ封ス
- 四 島嶼及北米、南方占領地域ニ在留スル者ノ家族ハ敵ニ利用セラル、顧慮大ナルヲ以テ開戦ト共ニ抑留シ敵ノ利用ヲ阻止ス

第八章 通信連絡

- 一 通信網要圖附圖第一及第二如シ
- 二 有線通信ハ戰闘ヲ顧慮シテ重構成ハ應用資材ヲ收集利用シ以テ小被覆線ノ温存ヲ圖ルモノトス
- 三 無線通信ハ併用(又ハ主用)スルモノトス
- 四 軍用鳩及軍犬ノ使用ニ明シテハ別ニ示ス
- 五 地方電話ノ使用ニ方リテハ特ニ通話事項ノ防諜ニ注意シ軍機(秘密)事項ハ暗號又ハ略號ニヨリ連絡ス
- 六 各隊共通信資材ノ愛護特ニ通信線路及電源ノ保持ニ就テハ深甚ノ注意ヲ要ス
- 七 其他連絡規定ニ基キ實施ス

第九章 築城

- 一 築城施設ハ海空ヨリスル猛烈ナル砲爆撃及機甲ヲ伴フ優勢ナル敵ノ攻撃ニ對シ救強ナル戰闘ヲ遂行シ得ルヲ主眼トシ之カ爲地形地利ノ利用ト相俟テ極力分散秘匿ニテ敵火ノ損害ヲ避クルト共ニ陣地要部ハ資材勞力ノ許ス限リ四周ニ對シ據矣式ニ堅固ニ構築ス所要ノ彈藥糧秣及水ヲ内部ニ抱擁確保シ以テ長期持久シ得ル如ク獨立性ヲ強化ス
- 二 交通施設ハ發洩タル陣内機動戰闘ノ遂行ニ資スルヲ主眼トシ敵ノ砲爆撃ニ對スル對策ニ著意シ局部的迂回路秘匿セル間道補修材料ノ集積敵砲爆撃ニ對スル待避準備等ヲ行ヒ又敵機甲部隊阻止ノ爲交通網ノ遮斷局部的破壞準備ニ遺憾ナカラシム
- 三 對機甲ノ爲ニ現地ノ地形地物ヲ仔細ニ踏査シ天然ノ地障ヲ利用スルハ勿論火力ト連繫シテ壕・陷穽・倒樹・岩石ノ堆積又ハ樹立等ニヨリ阻絶及地雷・局地火災源ノ設置等人工障物ヲ施設ス

陣地ノ獨立持久ヲ策ス

對戰車內迫攻撃資材ヲ整備シテ主トシテ黃色塗料ヲ用フ精神要素ノ
涵養ト訓練ノ精到ト相俟テ一戰車主義ニ徹セシム

四、瓦斯防護ノ施設ハ被毒防止ノ設備ニ主トシテ主要ナル指揮所、觀測
所、通信所、火炮陣地等ニハ等々特別ノ限リ米國防護ノ準備ヲ行

五、以下細部ノ著意事項ヲ列記ス

一、棲息掩蔽部ハ横穴式トシ陣地ヲ完全ニ落盤其他不慮ノ危害
防止ニ努ム

掩蔽層妙チクモニノ米以上トシ掩護厚充分ナラサル場合ハ遮斷層ヲ
設ケテ之ヲ補強スルモノトス

一、坑道(横穴)ニ對シニ以上ノ出入口ヲ設ケ此ノ間隔ヲ最小限一〇米トス
開口部ニ偽裝、爆撃、爆風等ニ對スル補強施設ニ遺憾ナク期スル
外敵ノ火焰戰鬥ニ對スル施設ヲ要ス

之カ爲開口部ニ門扉ヲ附シ坑内ニ隔壁ヲ設ケ消火用水ヲ準備スル
等掩蔽部自体ノ諸施設ヲ強化スルト共ニ掩蔽部側近ニ之ヲ援護
スル野戰陣地ヲ構築ヲ要アリ

2、洞窟式陣地ニ據ル重火器、火炮、銃眼、砲門部ハ敵ノ直射彈
ニ對抗シ得ル如ク四―六米掩護厚ヲ要ス 尚四―六米掩護厚ヲ
保持シ難キ場合ハ遮斷層ニヨリ之ヲ補強スルノ著意ヲ要ス
斜射、側射ニ於ケル敵方斜面、側壁ニ對シテモ充分ナル被覆ヲ施

ス、要アリ

3、彈藥、糧秣其他作戰資材ハ主陣地帯内及擊滅據兵内ニ分
置シ特ニ敵ノ砲爆ニ對シ絶對安全ナル如ク地形ノ利用及洞窟内
ニ收容ス此ノ際防濕ニ関シテハ萬全ノ注意ヲ要ス

4、陣地ハ側射及背射主義ニ徹底シ至短距離ニ於テ急襲的効果ヲ
收ムル如ク特ニ對戰車火器ノ如クハ短切閣射撃ヲ發揚ス

5、沿岸各地ニ努メテ多クノ偽陣地ヲ構築シ敵ノ砲爆ヲ吸收ス

6. 豫想スル敵上陸地矣ノ水際及「リ」ノ縁端ニ敵舟艇ノ達著阻
 止ノ爲努メテ多ク水中障物ヲ設置ス
 7. 肉攻壕ハ無積土トシ充分ナル偽裝ヲ施シ敵戦車及随伴歩兵ノ爲
 過早ニ發見セラレタル如ク處置ス
 8. 豫想スル敵上陸地矣ニハ爾後ノ挺身奇襲ヲ顧慮シ豫メ切込ミ
 據矣ヲ選定シ秘匿施設ヲ準備ス
 9. 通信所ノ設備ハ地下又ハ洞窟内ニ設備シ路線ノ埋没及電源ノ
 掩護ヲ確實ニス
 10. 工事完成後ハ勿論進捗中ニ於テモ偽裝ヲ完全ニシ交通跡及形跡ヲ
 遺ナル如ク細心ノ注意ヲ要ス

第十章 戦闘

要旨

各隊ハ戦訓ヲ檢討シテ共ニ米軍戦法就中對砲爆對戰車對策ニ
 徹底シ彼ノ短所ニ乘スル卓抜ナル創意ヲ發洩スル企圖心ヲ以テ眞
 三奇策縱横端倪ヲ許サル戦法ヲ案出シテ敵ノ意表ニ出ツルノ戰訓
 指導ヲ確立シ之カ實行ヲ容易ナラシムル如ク陣地ヲ施設強化スル
 共ニ各戰團任務ニ即スル訓練ヲシテ復演練シテ眞ニ必勝必滅確
 乎タル信念ヲ堅持セシムルニ到ラシムルヲ要ス
 而シテ戰團指導ハ常ニ積極主動彈力性アル鞏強ナルヲ要シ千遍一
 律硬直固定化セル戦法ハ敵ニ乘セラレ必敗ヲ招クモノナルヲ銘肝ス
 ルヲ要ス

一、對砲爆動作

1. 敵の熾烈ナル爆撃ヲ監視射撃ニ對シテハ横穴洞窟内ニ入り一兵一銃
モ損傷ヲ被ラサルヲ要ス

之カ爲陣地ノ施設ハ地形ヲ利用シ之等ニ對抗シ得ル強度(掩護層
數クモ二十米)ヲ有セム

2. 敵ノ砲爆ヲ分散セシムル爲機ハ偽陣地ヲ大規模且徹底的ニ實施
シ要スレハ陽動欺騙行動ヲ加フ

3. 敵飛行機ニ對シテハ眞ニ必中ヲ期シ得ル距離ニ於テノミ射撃ス
飛行機ノ飛行方向ヲ捉ヘ待チ撃テトス

射撃距離ハ小銃輕機ニテリテハ二〇〇米以内機關銃ト雖モ五〇〇米ヲ
起ニル場合ハ射撃セズ

4. 敵熾烈ナル砲爆撃ヲ受クルマ動モスレハ恐怖觀念ヲ生シ志氣消
沈シ易シ幹部ハ絶ハス志氣ヲ昂揚スルト共ニ必要時敢然洞窟ヨリ墮
出スルノ勇氣必ク養成スルヲ要ス

ニ水際戦闘

1. 敵舟艇ノ達著時ハ我ノ乘スヘキ好機會ナルモ配備及兵力上大ナル兵
カラ派遣スルコトナラ一部ヲ以テ要ス(突出部)如キニ背側射陣地ヲ占領セ
シテ遠看ノ好機短切ナル急激射撃ニヨリ敵戦カラ消耗ス

2. 敵ノ上陸スル地矣ハ熾烈ナル艦砲射撃及空爆ヲ受ケ断崖ト雖モ
平地化シ所在ノ地物モ清野化スルニ思ヒテ致シ特ニ地形ノ利用施設ヲ

最モ堅固ナラシムルヲ要ス
然ラテハ任務達成前ニ施設崩壊セシレ徒ニ損害ヲ受クルニ到ルモノトス

3. 海岸監視哨ハ海上警戒ニ任ストモニ敵ノ上陸ヲ妨害シタル後敵ト
觸接ヲ保テ好機ニ投シ奇襲ノ効果ヲ收メテノ歸還スルモノトス

4. 海岸線附近ノ要線ハ偽陣地トシ或ヒハ一部ノ兵力ヲ以テ前進據点トシ
占領スルヲ可トス

三、前地ノ戦闘

敵ハ從來海岸近くニ先ツ橋頭堡ヲ設ケ諸準備ヲ整ヘタル後攻撃前進
スルノ戦法ヲ採リアリシモ最近強力戦車掩護ノ下ニ上陸直後ヨリ突進ス

2. 前地ノ戦闘ニ於テモ艦砲及爆薬ヲ掩護ノ下ニ前進シ我々最モ乗スヘキ
夜間ハ照明彈等ヨリ白晝化スルヲ地形地物ノ利用疎開隊形備
留スル等ニ徹底シ要スルハ地形地物ヲ切込據突奇襲

據突ヲ作り隱匿陣地(ピツ)ヲ設ケ諸準備ヲ整ヘタル後
3. 前地ノ戦闘ハ於時ニ乘シ敵切込敢ナル挺身奇襲ニヨリ敵戦
カノ漸減ヲ期ス

4. 挺身奇襲ノ自標ハ敵司令部戰車砲兵兵器彈藥種秣資材
等ノ集積所トス

5. 挺身奇襲隊ハ選抜セル勇敢ナル小教人員ノ組シ小隊以上ノ兵力
ヲ使用スルヨリモ多数ノ組ヲ活躍セシムルヲ有利トス
仿衛隊、青訓生徒等ヲ加ヘ誘導等ニ任セシムルヲ可トス

6. 奇襲隊ハ潜入セシムル困難ヲ除ク爲ニ適當ナル地形地物(断崖、墓
地等)内ニ豫メ據突ヲ施設シ数日間居住シ好機ニ投シ此ノ地ヲ據
突トシテ及後實施スルヲ効果的ナリトス

7. 挺身奇襲隊ハ火力ニヨリ奇襲ヨリ爆薬手榴彈ニヨリ攻撃ヲ主
トス時トシテ火力又ハ「ガソリン」等ニヨリ燒撃組ト斬込ミ抜刀組等ト
協同セシムルヲ可トスルコトアリ

8. 時トシテ挺身奇襲ヲ沿岸ヨリ游泳ニテ敵ノ背後一切込マシムルヲ可トス
ルコトアリ

9. 前地ニ突在スル部落森林墓地断崖等ハ内攻竹槍奇襲手
榴彈爆薬等ニヨリ挺身奇襲ノ據突トシテ有利ニ利用セラル

10. 既設ノ陣地ハ本陣地ト誤認セシムル爲ニテ偽陣地トシテ利用スル外
前進陣地トシ一部ノ兵力(小隊以下)ヲ以テ成ル可ク長ク保持シテ敵
通路(所謂イタチノ道)ニ内攻ヲ準備必爆ヲ期スルヲ要ス

兵力、漸減ス圖ルニトス
本陣地前方ニ在ル高地ハ前地ノ要矣ナルヲ以テ一部ノ兵力ヲ以テ其ノ
巔頂ヲ占領シシメ成レシメ長ク之ヲ保持シテ敵ニ展望地矣ヲ與ヘサル
ト共ニ背側則チ據テ之ヲ敵ノ攻撃ヲ遲滞セシム

三、本陣地ノ戦闘

1. 本陣地ハ敵ノ艦砲射撃ヲ受ケ且ツ戰車ノ蹂躪ヲ恐ラサル天險ニ
設ケ過早ニ敵ト決戦ヲ避ケ成ル可ク長ク持テスヲ策ス
2. 陣地ハ擊滅據テシテ四圍ニ對シ堅固ニ構築シテ縱深ニヨリ一擊
突破ヲ被ラザルヲ要ス一火兵ヲ失ハ、直チニ陣地ノ破綻ヲ生スルカ
如キハ不可ナリ
之カ爲背側射ヲヨリ相互ニ火力支援ヲナシ得ル如クスルトスニ各獨
立性ヲ保シシムルヲ要ス

3. 本陣地ノ各火器ハ正面射ヲ避ケ徹底セル背側射ヲナシ得ル如ク準
備シ敵陣前至近距離(200米以内)ニ近迫シテ後疾風迅雷的急襲
火力ヲ發揚(發射速度ノ訓練ヲ要ス)火力ヨリ陣前ニ擊滅シ敵ヲシテ
一步モ我カ陣地ヲ踏ムシメス
 4. 射撃ハ重火器ニ至ル迄一發心中ノ狙撃トシ重火器ハ諸元ヲ保
留シテ第一發ヨリ効力射ヲ爲スニトス
- 射撃直後、掩蔽ノ位置ノ機敏ナル移動ニヨリ敵火器ニ捉ハレサル
ヲ要ス
- 此ノ機ニ於ケル兵ノ射撃伎倆ハ能ク戰鬥ノ勝負ヲ左右スルモノナル
ヲ銘肝スルヲ要ス
- 連續不斷ノ重火器射撃ハ徒ラニ彈藥ヲ浪費スルニ過ギス
散兵重火器ハ數個ノ豫備陣地ヲ準備シ敵ノ不意ニ乘スルヲ要ス
5. 各級ノ幹部ハ防禦火力ノ重責ヲ爲戰況緩ナル方面ヨリ兵力
火器ヲ抽出シテ之ヲ掌握シテ所望ノ方面ニ火力ノ重責ヲ形成シ或

ハ、配備ノ変更、極力彈力性アル戦闘ヲ指導スルヲ要ス
ハ、戦車ハ、地形ヲ利用シ、重要方面ノ三角断面(上幅四米
深一、五米)ノ地雷源ヲ構成シ、此ノ附近ニ内攻壕(無積土ニ米以ヒ
テ、地雷式ニ蓋ヲ蓋シテ)ヲ配置シ、内攻ト火力地帯ヲ區分シ、
戦中ヲ監視ス

戦中ノ監視、戦車ノ本附近ニ設ケ必ス火力ヲ伴ハシムルヲ要シ、火器位
置、戦車ノ及ハサルニハ編隊式陣ニテ火力ヲ伴ハシム
シ、戦車ノ前進ハ、地雷式ニ設ケ、敵ノ榴弾投擲距離外ノ敵
ノ戦車ヲ必ス破スルヲ以テ、敵第一線ニ對シテ有効ナル射撃ヲ成シ得ル
如ノ準備ス

障碍物ハ抵抗地帯ノ前線ト平行スルトシテ、戦車壕ト相交錯
セシメ、陣地ノ秘匿ニ留意シ、且敵砲彈ニシテ破壊ヲ被ラサル爲、地
形ヲ利用スルヲ要ス

8. 敵戦車陣内ニ侵入進出シ、場合ハ冷静沈着ニ交通壕等ヲ障得トシ

内攻ニヨリ破推ス此、機ニ於テハ全員内攻手トナリ體當リ自爆精神ヲ
以テ一人一車ヲ屠ルノ皇軍ノ本領ヲ發揮スヘシ

9. 敵戦車ハ陣地守兵ニ對シテ正面側面ヨリ射撃シ守兵アレハ前進セス
射撃シテ、躍進シ之ニ一、二名拉キ、歩兵隨伴スルヲ以テ内攻ト共ニ

隨伴歩兵ヲ粗撃シテ戦車ヲ掩護ノモノニ至ラハ内攻ノ好機トス
10. 戦車ニ隨隨シテ突撃スル敵ニ對シテハ歩戦ヲ分離シテ戦車ハ陣内
交通壕等ヲ利用スル内攻ニヨリ之ヲ破推シ隨伴スル歩兵ハ火力ニ

ヨリ之ヲ殲滅ス
敵若シ我カ脚端ニ未ダ八壕内ニ直突射撃或ハ腰狙射撃ニヨリ

之ヲ屠リ敵壕内ニ躍込マントスル時、射殺ス
此ノ際陣地ヲ棄テ、胸牆ニ上リ或ハ逆襲スルハ嚴禁シ、砲ヲマテ施

設ヲ利用シテ頑強ニ任務ヲ達成スヘシ
11. 手榴彈ハ其數十十分ナラサルニ鑑ミ、眞ニ重要ナル好機ニ乘シ最大

ノ威力ヲ發揮スル著意ヲ要ス

敵障碍物破壊孔ヲ通過セントシテ陣前ニ蟄集スル等ノ好機又ハ潛行シテ有利ナル目標ヲ捉ヘ得ルコト如キ場合使用スルヲ有利トス多クノ場合各隊長ノ指令ニヨルベシ

12 敵若シ我カ陣地ニ一部ニ侵入スル隊長ハ他方面ノ火器ヲ以テ之ヲ制壓シテ其ノ手裡ニ掌握シ敵ノ背ニ殺到シテ陣地ヲ奪回スヘシ此ノ際敵火ノ損害ヲ受ケザルノ煙ヲ使用セハ有利ナルコトアリ

13 敵逐次我陣地ヲ侵略シ或ハ間隙ヨリ浸透シ来ルモ守兵ハ過早ニ抵抗ヲ断念スヘカラス飽クマテ強固ニ持場ヲ死守シ敵ニ側背射ノ猛火ヲ集中シ中隊長ノ陣地奪回動作ヲ容易ナラシムヘシ

14 敵若シ縱深深ク突破スルモノハ側ニアル火兵又ハ守兵ハ敵ヲシテ突破口ヲ擴大セシメサルノミナラス敵ノ突破口ヲ閉塞シテ後方部隊ヲテ侵入セシ敵ヲ陣内ニ於テ殲滅スル動作ヲ容易ナラシムヘシ

此ノ突破口ヲ閉塞シテ侵入セシ敵ノ後方連絡ヲ断ツ動作ハ陣地保持ノ絶対要件トス

15 敵逐次我カ陣地ヲ侵略シ戦線犬牙錯綜シ戦鬪悲慘ニ陥ルコトアルモ現存スル守兵ハ飽クマテ守地ヲ死守シ火カト白兵ニヨリ殺到スル敵ヲ屠リ果シテ敵ノ屍ノ山ヲ積ムヘシ

此ノ勇敢ナル動作ト熾盛ナル責任觀念ト敢闘精神ハ能ク中隊長ヲシテ陣地奪回ヲ容易ナラシムルモノコレヲ中隊團結ノ精華ハ實ニ此ノ時機ニ發揮セラルモノトス

第十一章

兵器彈藥及資材集積貯藏

並ニ補給ニ関スル事項

一 熾烈ナル砲撃下ニ於テ之カ絶對ニ防止施設ニ徹底スルト共ニ兵器集積中心ノ島揚ニ兵器軍紀ノ整ヘ下真任觀念ノ強調トニヨリ不
斷ノ整備並用ニ萬全ヲ期セントス

二 貯藏又集積ハ主陣地内ニ於テ高處ニ分散配置シ砲爆ニ對シ絶對安
全ノ期スル如ク洞窟内ニ格納ス之際特ニ防濕ニ著意スルヲ要ス
燃料、爆藥、火之彈藥資材ト離隔シ且ツ燃焼ノ懸念ナキ位置ヲ選
定スルモノトス

三 兵器彈藥資材修理ハ左ノ如ク實施ス

ハ 作戰準備間

輕易ナル修理ハ各守備隊毎ニ修理工場ヲ設ケテ加修スル外地方領

工所等ヲ利用シテ整備ニ努ム

本隊ニ於テ修理困難ナルモノハ旅團司令部ヲ經テ軍兵器修理所ニ

委託スルモノトス

二 戰闘間

各守備隊毎ニ陣地内ニ設ケ置セル修理作業場ニ於テ日隊修理ニ
努ムルノ外兵器勤務隊ノ援助ヲ受クルモノトス

敵遺棄セル兵器資材ハ之ヲ押收シ極力活用ス

四 彈藥ハ各守備隊毎ニ一會戰分彈藥檢ネ四分一ヲ開戰前豫メ

交付シ夫々其ノ陣地内ニ貯存スルモノトス

殘餘ノ彈藥ハ之ヲ聯隊ノ被廓内ニ收納ス

對戰車資材ハ各隊ニ交付セルモノニ依ルノ外創意工夫シ各種資材ノ

活用ヲ發揚ス

五 一會戰分ノ彈藥基準左ノ如シ

拳銃 一銃ニ付

一ニ發

小銃 一銃ニ付

四五發

輕機關銃 一銃ニ付

九ニニ〇發

重機關銃 一銃ニ付 普通 一四一六六發

重擲彈筒 一筒ニ付 徹甲 二五〇發

速射砲 一門ニ付 榴彈 二三五發

聯隊砲 一門ニ付 榴甲 二七五發

手榴彈 一人ニ付 榴彈 四〇〇發

(但、逆殺彈藥、算入セズ)

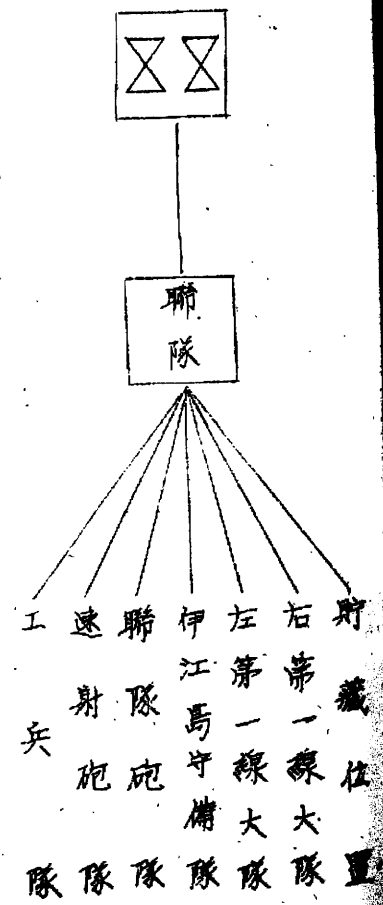
其他ハ之ヲ略ス

六 自動車燃料ハ作戰用トシテ一ヶ月分(三六〇リ)ヲ履廊内ニ貯藏ス

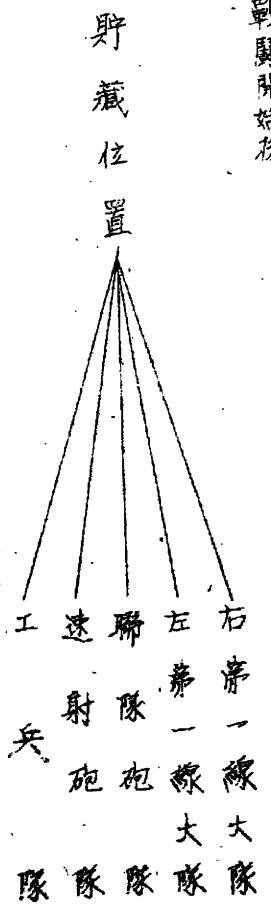
亦派團ヨリ常時用トシテ補給ヲ度クル分ニ對シテハ極度ノ節用ニ努ム

七 兵器彈藥及資材ノ補給ヲ要領左ノ如シ

ノ作戰準備間



二 戰闘開始後



註ノ補充並ニ受領ハ隊ニ於テ編成セル行李並ニ防衛團

青訓生ヲ以テ實施ス

二、伊江島守備隊ハ豫メ其ノ全部ヲ複廓内ニ貯藏スルニ
ハ、各隊ニ對スル戰鬪開始後ノ彈藥補給ノ爲メ兵器勤務隊ハ豫メ諸準
備ヲ整令ルモ各隊ハ之カ受領ノ爲メ地方荷馬車ヲ徵借シ補給ノ圓滑
ヲ期スルヲ要ス

第十一章 給水 衛生

給水
一、給水源ハ敵眼敵火ニ遮蔽シ特ニ敵ノ砲爆ニ對シ完全ニ保護セラル、
如ク堅固ニ施設スルヲ要ス。特ニ給水源之ニキ聯隊被廓陣地内ニ於テ
然リトス

二、給水不便ナル陣地内ニ於テハ、勘定人員ニ應スル約一ヶ月分ノ地下貯水
ノ設備ヲ完備シ尚陣地側近ニハ水槽ヲ設置シ又天水ノ蒐集利用ニ

関シ充分ナル施設ヲ要ス

三、陣地ノ現況ニ鑑ミ節水訓練ニ徹底シ一日一人ノ使用量ヲ五―六リ

ニ迄切下得ル如ク指導監督スルモノトス

四、貯水ノ腐敗ヲ防止スル爲メ日光ヲ避ケ水槽容器ハ地下ニ設備シ冷風裝

置トス

五、給水源ニ對スル謀略行爲ニ對シ嚴ニ留意シ之カ掩護ヲ兼ネ所要

監視兵ヲ配置ス

六、給水ノ爲メ手桶、空樽、空瓶、馬車、輜重車等ヲ準備ス

給水運搬路ハ地上ニ速蔽セル樹木下ヲ利用ス

七、馬給水ノ爲メ陣地ヨリ離隔セル速蔽良好且ツ給水豊富ナル位

置ヲ選定ス

八、複廓陣地内ニ現在勘ナクモ四個以上ノ水井ヲ必要トス

衛生

一 入院患者ハ野戰病院ニ收容スルモトス

二 戰鬪間發生セル傷病者收容ノ爲概々人員ノ10%内外ヲ收容スルニ

角兵舎及洞窟ヲ準備ス

傳染病患者ニ對シテハ別ニ洞窟ヲ設クルモトス

三 衛生材料及藥物ハ主陣地洞窟内ニ分散格納シ使用ノ適正ヲ期スルノ

外現地ノ藥草ヲ利用ニ努ム

四 急性傳染病、風土病並ニ蚊族ノ分布状態ヲ詳細ニ調査シ之カ防遏處

置ニ萬全ヲ期ス

五 陣地内ノ給水源及水質ヲ調査シ使用區分ヲ明示シ戰鬪準備間ハ勿論

戰鬪間ノ給水ニ遺憾ナマラ期ス

六 飲料水ハ常時煮沸又ハ濾過シ使用セシム情況真止ムヲ得サル場合ニ生

水ノ飲用ヲ許可スルモ事前ニ於ケル水質、細菌検査ニ充分ナル者意ヲ

要ス

七 高濕ナル洞窟内起居ニ伴ヒ呼吸器疾患并胃腸疾患及皮膚病種

防ニ關シ特ニ留意ス

八 洞窟内ニ於ケル氣容積ハ一人ハ之方米ヲ基準トス

九 洞窟内換氣ハ自然換氣ヲ原則トスルモ出來得レバ人工換氣ニ着意

ス

一〇 厠ハ洞窟外少シク離レケル遮蔽良好ナル位置ヲ選定シ特ニ清潔ニ

保持 防蠅ニ努ム

洞窟内ニ設ケル場合ハ密室トシ之上ケ換氣筒ノ臭氣抜ヲ設ケ且ソ

糞尿ハ引出式トス